

Citation 4<sup>9</sup>

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2001-055225

(43)Date of publication of application : 27.02.2001

(51)Int.Cl.

B65D 5/62

B32B 1/02

B32B 27/12

B65D 5/42

(21)Application number : 11-231232

(71)Applicant : ASAHI PRINTING & PACKAGING CO  
LTD

(22)Date of filing : 18.08.1999

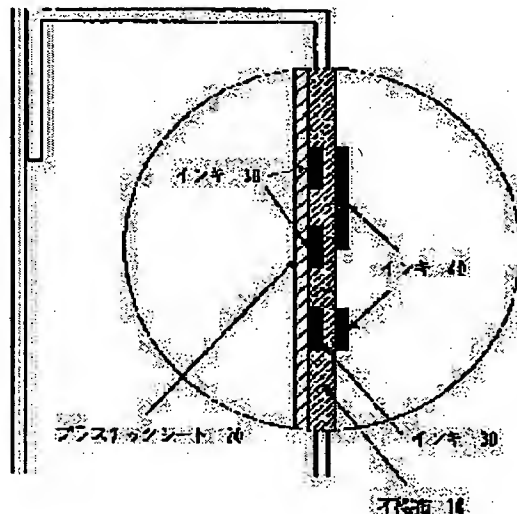
(72)Inventor : HARADA SEIICHI

## (54) PACKAGING BOX

## (57)Abstract:

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To provide a packaging box which looks classy, excellent in appearance and hand touch, unique in printing, and prevent the ink from being rubbed by punching a transparent plastic sheet with a nonwoven fabric stuck on its whole surface to form a box, and executing the printing on the nonwoven fabric surface side of the plastic sheet.

**SOLUTION:** A stock material with a nonwoven fabric 10 consisting of plastic fibers stuck on the whole surface of a hard plastic sheet via an appropriate adhesive is punched to form a packaging box. An ink 30 is offset printed on the plastic sheet 20 between the nonwoven fabric 10 and the plastic sheet 20, and in addition, an ink 40 is screen-printed on the nonwoven fabric 10 on the side opposite to the plastic sheet 20. Since the letters and patterns of the ink 38 are visible through the nonwoven fabric 10, the unique expression is possible, and the letters or pattern are neither rubbed or deleted since the nonwoven fabric 10 is stuck on the ink 30.



## LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's  
decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

# Citation 4

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号  
特開2001-55225  
(P2001-55225A)

(43) 公開日 平成13年2月27日 (2001.2.27)

(51) Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	キーワード (参考)
B 6 5 D 5/62		B 6 5 D 5/62	A 3 E 0 6 0
B 3 2 B 1/02		B 3 2 B 1/02	4 F 1 0 0
27/12		27/12	
B 6 5 D 5/42		B 6 5 D 5/42	C

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平11-231232

(22) 出願日 平成11年8月18日 (1999.8.18)

(71) 出願人 391019500

朝日印刷紙器株式会社

富山県富山市黒崎50番地

(72) 発明者 原田 誠一

富山県富山市黒崎50番地 朝日印刷紙器株式会社内

Fターム (参考) 3E060 BC01 BC04 DA06

4F100 AK01B AK07 AK15 AK41

BA02 CB00 DG15A EJ26

GB16 HB31B JB14 JK09

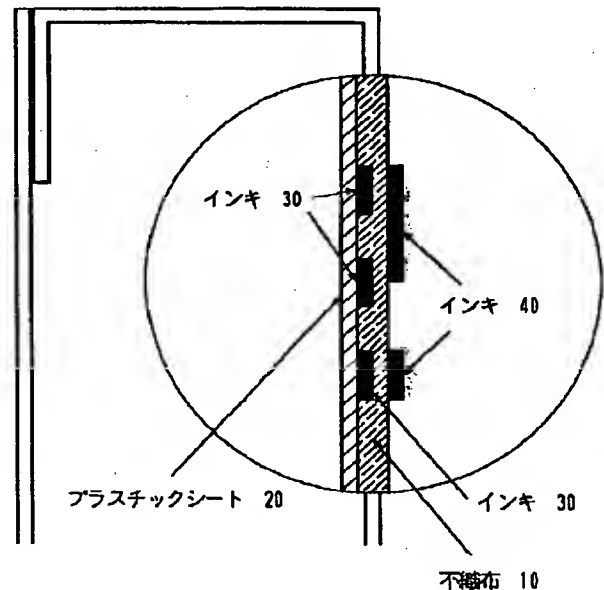
JL00 JN01B

(54) 【発明の名称】 包装用箱

(57) 【要約】

【課題】 高級感があり、風合いや手触りがよく独特の印刷表現が可能で、インキの擦れを防ぐことができる包装用箱を提供する。

【解決手段】 不織布10が全面に貼り合わされた透明プラスチックシート20から打ち抜いて形成された包装用箱で、このプラスチックシート20の不織布面10側には、印刷が施されている。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 不織布が全面に貼り合わされた透明プラスチックシートから打ち抜いて形成されることを特徴とする包装用箱。

【請求項2】 上記プラスチックシートの不織布面側には、印刷が施されていることを特徴とする請求項1記載の包装用箱。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】 この発明は、商品を個別に収容し店頭に陳列などする包装用箱に関する。

## 【0002】

【従来の技術】 従来、化粧品などの包装用箱として、透明プラスチックシートを使った包装箱が使われている。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかし、透明プラスチックシートを使った包装箱が増加するに従って、それぞれの箱の特徴を出すことが難しくなり、消費者の目にとまりにくくなるという問題点があった。

【0004】 この発明は、上記従来の技術の問題点に鑑みてなされたもので、高級感があり、風合いや手触りがよい包装用箱を提供することにある。

## 【0005】

【課題を解決するための手段】 この発明は、不織布が全面に貼り合わされた透明プラスチックシートから打ち抜いて形成される包装用箱である。そして、上記プラスチックシートの不織布面側には、印刷が施されている包装用箱である。

## 【発明の実施の形態】

【0006】 以下、この発明の実施の形態について図面に基づいて説明する。図1はこの発明の第一実施形態を示すもので、この実施の形態の包装用箱は、図1に示すように、包装用箱の外側から順に不織布10、プラスチックシート20が貼り合わされている。不織布10とプラスチックシートの界面は、適宜の接着剤を介して接合一体化されている。プラスチックシート20は、ポリ塩化ビニル、ポリプロピレン、ポリエチレンテレフタレート等の硬質シートである。その厚さは通常0.1～1mm程度のものを用いる。不織布10は、ポリプロピレン、あるいはポリエチレンテレフタレート等のプラスチック繊維からなるもので、不織布の目付量は、例えば10～30g/m<sup>2</sup>である。この時、プラスチックシート20と不織布10の材質を同じにすれば、同素材の組み合わせとしてリサイクルすることが可能である。

【0007】 そして、不織布10とプラスチックシート20の間には、インキ30がプラスチックシート20上にオフセット印刷されて形成されている。ここで使用するオフセットインキは、通常プラスチックシートの印刷に使われる紫外線硬化タイプのものを使用する。さらに、不織布10上の、プラスチックシートと反対側には

インキ40がスクリーン印刷により形成されている。

【0008】 この時、インキ30による文字、模様などのデザインは、不織布を通して見えることになるので、通常の印刷とは違った独特の表現が可能である。また、通常、インキの耐摩擦性を向上させるために、インキの上に透明なOPニスを乗せて印刷するが、この実施形態の場合、インキ上に不織布が貼られているため、インキの耐摩擦性を心配する必要がなく、OPニスを省くことができるものである。

【0009】 次に、この発明の第二実施形態について図2に基づいて説明する。ここで、上述の実施形態と同様の部材は同一の符号を付して説明を省略する。この実施形態の包装箱は、図2に示すように、包装用箱の外側から順にプラスチックシート20、不織布10が貼り合わされている。不織布10とプラスチックシートの界面は、適宜の接着剤を介して接合一体化されている。第一実施形態と同様に、プラスチックシート20は、ポリ塩化ビニル、ポリプロピレン、ポリエチレンテレフタレート等の硬質シートである。その厚さは通常0.1～1mm程度のものを用いる。不織布10は、ポリプロピレン、あるいはポリエチレンテレフタレート等のプラスチック繊維からなるもので、不織布の目付量は、例えば10～30g/m<sup>2</sup>である。この時、プラスチックシート20と不織布10の材質を同じにすれば、同素材の組み合わせとしてリサイクルすることが可能である。

【0010】 そして、不織布10とプラスチックシート20の間には、インキ30がプラスチックシート20上にオフセット印刷されて形成されている。ここで使用するオフセットインキは、通常プラスチックシートの印刷に使われる紫外線硬化タイプのものを使用する。さらに、プラスチックシート20上の不織布10と反対側にはインキ40がスクリーン印刷により形成されている。

【0011】 通常はインキの耐摩擦性を向上させるために、インキの上に透明なOPニスを乗せて印刷するが、この実施形態の場合、インキ上に不織布が貼られているため、インキの耐摩擦性を心配する必要がなく、OPニスを省くことができるものである。また、包装箱の内面が不織布10なので、中に入れた商品の擦れを防ぐことができる。また、包装箱の外側から見ると、プラスチックシート20の光沢と、不織布の風合いが組み合わせ、今までにない表現の包装箱となるものである。

【0012】 プラスチックシート、不織布への印刷方法、使用インキは、特にこの実施の形態に限られるものではなく、オフセット印刷、グラビア印刷、スクリーン印刷など適宜選択可能な物である。

## 【0013】

【発明の効果】 この発明の包装箱は、高級感があり、風合いや手触りがよいもので、独特の印刷表現が可能なのである。また、不織布を印刷したインキ面の上に貼り合わせるので、インキの擦れを防ぐことができる。ま

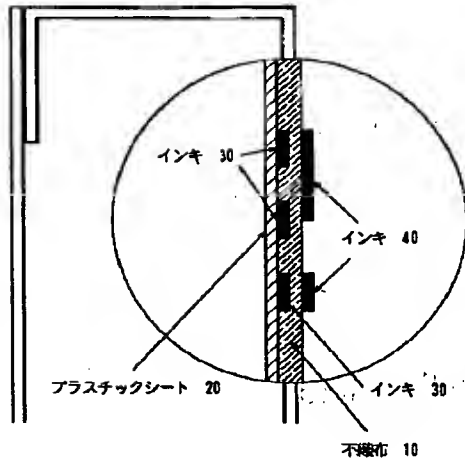
た、包装箱の内面に不織布を貼り合わせた場合は、中の商品の擦れ防止の効果も期待できるものである。

【図面の簡単な説明】

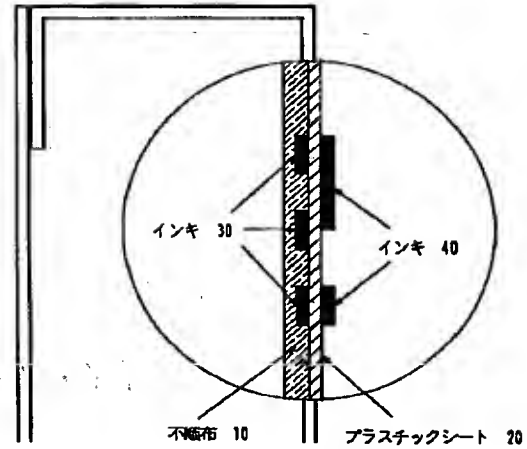
【図1】この発明の第一実施形態の包装箱の部分拡大断面図である。

【図2】この発明の第二実施形態の包装箱の部分拡大断面図である。

【図1】



【図2】



**THIS PAGE BLANK (USPTO)**